

川崎ドルえもんのFX歴史

F Xを始めた理由

- 私がF Xを始めた理由は、当時の仕事はバーテンダーをしており、**自分のお店 (BAR) を開業したい**とっていました。

しかし、バーテンダーの仕事は給料が安く、なかなか開業資金が貯まりません。

そこで、まずは開業資金を貯めるために、実入りの良いと思っていた建築業の仕事に就くことにしました。

しかし、その実情は日給制の仕事で、なかなか開業資金が貯まる状況ではありませんでした。

そんな時にテレビで某F X会社のCMを見て「これだ！」と思って開業資金を貯めるために始めたのがきっかけです。

F Xを始める準備を開始

・ F Xを始めると決めてから僕は**3つの準備**を始めました。

① **資金を貯める**

まずは、F Xは種銭が無ければ始まりません。そこで半年間は贅沢をせずに貯金をして**30万円の資金**を作りました。(後に消えますが…)

② **チャートを半年間チェックする**

F Xで儲ける為にはチャートが上に動くのか、下に動くのかが分からないといけません。そこで、**売買はせずに**半年間はチャートをチェックすることにしました。

③ **本を読む**

F Xのことを知らなかった僕は全く為替のことを知りませんでした。そこで、まずは為替とF Xの勉強をしようと思って**半年間で30冊の本を読む**ことにしました。

F Xを始めてから3年間①

- 以上の下準備を半年間行った後に、私はF Xを始めました。始めた当初は、移動平均線もしくはMACDがゴールデンクロスしたら買い、デッドクロスしたら売り、というとてもシンプルなトレードを行っていました。

F Xを始めた半年間は微益程度でしたが、その後に大きな利益をもたらす出来事が起こります。

それは2015年1月に起こったスイスフランショックです。この時に私はユーロ円をショートしており、急落と急落後の戻りで合わせて25万円の利益を1日で得ました。

これだけ見るとすごいのですが、ここから為替の呪いが始まります。

F Xを始めてから3年間②

- 急落で大きな利益を得た僕は「なんだ、俺天才じゃん」と自惚れます。元々急落なんてことが起こることは稀なことですよ。

しかし、急落で大きな利益を1日で得た僕は、大きなトレンドばかりを追い求めるようになります。

実際にはレンジ相場なのに「直近の高値を更新したらトレンドが発生して大きな利益が取れるよね！」と直近の高値のちょっと下でロングしてレンジの高値を掴んで損切り…という行動ばかりして、フランショックで得た利益だけではなく、資金さえも溶かしてしまいました。

これが、私が急落で得た為替の呪いです。

この経験をした僕は、トレードを諦めそうになりますが、諦めずにもう一度、F Xの研究を開始します。

3年間のトレードを反省

- まず、最初の3年間のFXトレードで反省すべきところは、トレンドばかり追い求めてトレードを行っていたことと、利益確定と損切りポイントを決めていなかったことです。

元々FXは**トレンド3割でレンジが7割**とされています。

トレンドが3割ということは、単純に考えると勝率は3割ということになります。それでは負けて当然ですよね。

それに、トレンドは利益確定ポイントや損切りポイントが分かりづらいという欠点もあると私は思いました。

また、兼業トレーダーだった頃の僕は、持っているポジションが気になって、**トイレに駆け込んでチャートをチェックする**ということをしていました。それではいけませんよね。

FXトレードを再研究

・最初の3年間で気づいたことは、3つあります。

- ①トレンドが3割ということは、残り7割のレンジに特化したトレードを研究したほうが良いのではないのか。
- ②持っているポジションが気になるなら、状況によって設定変更するにしても、利益確定と損切り注文を設定しておくべきではないか。
- ③利益確定ばかりに目が行ってしまっって損切りした時にいくらの損失になることを考えていない。

ということだと思いました。

そこで、それを解決するトレード方法を確立しようと研究を始めました。

トレード方法を確立①

- ・レンジに特化したトレード方法を確立しようとするとう意外と気付いていなかったことに気付けます。

トレンドを追い求めるトレードの欠点は利確ポイントと損切りポイントが分かりづらいということだと思います。

しかし、レンジに特化すると利益確定と損切りラインは直近の高値もしくは安値と決められることになります。

つまり、レンジの下限で反発を確認したあとにロングポジションを持てば、直近の安値が損切りラインで、直近の高値付近が利益確定ラインと分かりやすい判断が可能になります。

トレード方法を確立②

- また、この時に損切りされたら**いくらの損失が出るのかの計算をしておきましょう**。そうしておけば、評価損益が真っ赤でびっくりして本来損切りしなくて良いところで損切りして、損切り貧乏になることを防ぐようになります。

それと、**自分のポジションに自信を持ちましょう**。

最近ではSNSの発展で、様々なトレーダーのポジションが公開されています。

しかし、そのポジションが必ず正しいということはありません。

どんなプロでも損切りはしますし、短期トレードなのか、長期トレードなのかによってもポジションの売買は変わってきます。

自分がロングしたら、他の人がショートしていても自信を持って自分の利益確定ポイントや損切りポイントまで、責任をもってトレードを行っていきましょう。

<リスク開示>

このセミナーは、情報提供を目的としており、FX取引の勧誘を目的としたものではありません。また、実際の市場動向とは異なる可能性があり、断定的判断を提供するものでもありません。当該セミナーの内容を予告なく変更する場合があります。

当該セミナーの内容および資料のご利用によりお客様に損失が生じた場合であっても、当社および当該セミナーの講師（所属会社を含む。）は一切の責任を負いません。お取引につきましては、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。

なお、セミナーに関する著作権は、当社および作成者に属します。

お客様の私的使用目的以外での使用、他人への譲渡や販売または再配信等を行うことはできません。

<注意喚起>

店頭外国為替証拠金取引は、元本や利益を保証した金融商品ではなく、為替レートの変動等による損失発生の可能性があります。さらに、レバレッジ効果（想定元本と比較して少額の資金で大きな取引ができる仕組み）や為替レートの変動等によって注文（ロスカット注文を含む）が約定しない場合等、元本を上回る損失発生の可能性があります。

特に、マイナー通貨（流動性の低い通貨）の取引をされる場合、元本以上の損失発生の可能性が高くなります。加えて、スワップポイント（通貨間の金利差調整額）においては通貨ペアやポジションの状態（売りまたは買い）によっては、受け取れる場合もあれば、支払わなければならない場合もあります。

当社は、インターネットを通じて店頭外国為替証拠金取引サービスをご提供しておりますので、お客様のパソコン・インターネット環境や当社のシステムに不具合が生じた場合等、取引ができなくなる可能性があります。また、お客様の取引の相手方は当社（相対取引）となっており、取引所取引とは異なりますので、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、内容をご理解の上、ご自身の判断により取引を行っていただきますようお願いいたします。

商号：ヒロセ通商株式会社

業務内容：第一種金融商品取引業

登録番号：近畿財務局長（金商）第41号

加入協会：金融先物取引業協会会員番号1562